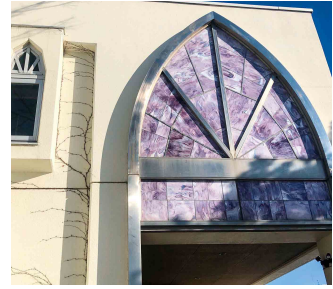


# よきおとずれ

カトリック釧路教会だより  
第16号 2020年1月12日（主の洗礼）発行



## 希望

### マウリリオ・ラザロ神父

新年のお慶びを申し上げます。

神の御子イエズスのご降誕の神秘の雰囲気に包まれて新しい年を迎える恵みをいただいたことを神に感謝しましょう。

この短い言葉が皆さんのお役に立つなら幸せに思います。

この一年が、皆さんにとって神の恵みに満たされた一年でありますように！

例えば、天の父である神さまとの親しみが、私たちの楽しみとなるように。これは大きな恵みです。聖アルフォンソ・マリア・デ・リグリは、こう言いました。「祈る人は救われるが、祈らない人は溺れてしまう」と。そうです、祈りで神に支えられて信仰を保ち深めることができますのです。祈りは、悪魔と悪の誘惑に打ち勝つ力となります。そして平和のうちに生きることができるでしょう。

次の恵みは、イエズスさまが私達を愛したように、私達もすべての人を愛することができるということです。

さらに、日常の苦しみをイエズスさまの苦

しみに合わせることに。それは、自分の罪と世界の人々の罪の償いとして捧げる恵みです。

最後の恵みは、自分の救いのためばかりではなく、家族と世界の人々の救いのために生きることです。よく考えると、もし私の親戚が永遠に亡びてしまったら…大変なことではないでしょうか。

人を救うことは、自分も救うことにもなります。お薦めとして<聖霊と聖母マリアに切にお助けを祈ること>。そうすれば、心が照らされて、すべきことが解るばかりではなく、それを果たす力もいただくことになるでしょう。

皆さんが、神の愛に包まれて、平和に満たされた日々を送れますように。

“人生の夕べには、愛について、  
問われるであろう”

（十字架の聖ヨハネ）

今年（2020年）12月31日を迎えた時、この一年を、喜びのうちに振りかえり、締めくくることができますように。

## 洗礼を受けていただいて

マリア・ベルナデッタ 倉本 <sup>たかこ</sup> 尊子

私が求道者として歩み出したのは、自分の人生に希望をもてなくなり、自分の存在に迷いを感じていた時のことです。毎日を悲観し、泣いてばかりいた私に、母が「一度、神父様に話をきいていただかないかい?」と言ってくれたことがきっかけでした。そして、父や妹にも背中を押され、神父様にお願いして、勉強を始めさせていただきました。神様のことが、何一つわからない私に毎回わかりやすく教えていただき、勉強が進んでいくにつれて「神様のことをもっと知りたい」と思うようになっていた自分がいました。

初めて日曜日の御ミサに与った時も、教会に入ると、たくさんの方々が、「よく来たね」、「来てくれて嬉しいよ」などと声をかけてくださって、とても嬉しかったのを今でも覚えています。

更に、毎日の生活の中で実際に「神様が導いてくださったんだ」、「神様がいつも一緒にいてくださるんだ」、「神様は別の道を用意してくださったんだ」などと、神様からたくさんの恵みをいただいていることを実感しています。そのような事から「神様の子にさせていただきたい」という気持ち



がどんどん強くなりました。

このたび、洗礼を受けていただいて、本当に嬉しく、感謝と喜びのうちに毎日を過ごしております。

これからも神様からのたくさんのお恵みに感謝しつつ、「今ある所で自分は何をすべきか」を常に意識し、皆様からいろいろ教えていただきながら、過ごしていきたいと考えております。

おわりに、神様とこれまで支えてくださった3人の神父様方、私のためにお祈りをしてくださった皆様、そして家族に、心から感謝いたします。

どうぞよろしく願いいたします。



### 2020年キリスト教一致祈禱週間

2020年1月18日～25日、全世界で行われます。

テーマは「人々は大変親切にしてくれた」(使徒言行録 28:2) です。

## 教皇ミサに与って

レジーア・ベネディクタ 勇 まゆみ

2019年11月25日、東京ドームで行われた教皇様のごミサは、「すべてのいのちを守るため」をテーマに開催されました。会場には様々な国の方々、また異なる宗教の方も含め5万人が集い、熱気に満ちたものでした。

教皇様が、オープンカー“パパモービル”で登場すると会場内は歓喜に包まれていました。

第一朗読が創世記1章、福音朗読は「山上の説教」マタイ6章、共同祈願や聖歌なども多言語により、各国の方々とともに捧げるミサでした。

教皇様は、午前中に行われた青年との集いで、社会的に孤立している人が少なくないこと、いのちの意味が分からず、自分の存在の意味を見いだせずにいる人が、決して少なくないことに気づかされたと言われました。

来日前の11月18日のメッセージでは、「すべてのいのちを守る」というテーマには、あらゆる人の価値と尊厳を守るという強い思いがあるとされました。いのちの意味がわからないということは、“いのちが軽んじられている”ということでもあり、私たちも深刻な問題と受けとめなくてはいけないことだと今さらながらに痛感しました。

教皇様はまた、『わたしたちはキリスト者の共同体として、思いやりを持ってすなおに

耳を傾ける姿勢で具体的に目の前にあるいのちを、抱擁し、受け入れる態度を持つこと』、それは『イエスさまが、重い皮膚病の人、目の見えない人、からだの不自由な人を抱きしめたように、ファリサイ派の人や罪人、ご自分を十字架刑に処した人々さえもゆるされた』ようにと私たちにも呼びかけられました。

そして最後に『善意あるすべての人と、また、異なる宗教を信じる人々と、絶えざる協力と対話を重ねつつ、主に結ばれるならば、すべてのいのちを、よりいっそう守り世話する社会の預言的なパン種となれるでしょう』と締めくくられました。

今回、教皇様は東京、長崎、広島と分刻みのスケジュールの中で、愛と希望の強い思いを語っていただきました。新聞やTVのニュースにもたびたび取り上げられましたので、教皇さまのメッセージが広く伝わっていくことを願っています。

\*『』内、説教文はカトリック新聞  
2019年12月8日号を参照しました。



記念カード、旗  
ミサ式次第

## オール神父様黙想会

フランシスコ 柿崎 順次

昨年10月3日に黙想会が開催され「おどろかせる神様」と題して、帯広教会オール神父様を指導司祭として迎えました。

私は2018年10月に小樽から釧路に23年ぶりにもどりました。その小樽教会の主任司祭だったオール神父様でした。まさか釧路で再会できるとはビックリです。

今回の黙想会は10時から第一講話とミサ、午後からゆるしの秘跡、第2講話という流れで行われました。

内容については、「見える奇跡と見えない奇跡」をわかりやすく聖書を通して話されました。オール神父様は声が大きく、ジェスチャーを含め動きが素晴らしかったです。第2

講話では、隠れた奇跡を見つける本物の信仰

を身体を使って話されました。参加者は約50人でした。

今回の反省点はテープレコーダーで記録として残せなかったことです。



フランソワ＝ザビエ・オール神父  
パリ外国宣教会（1994年叙階）  
毎日の聖書朗読をメールで配信する  
「日ごとの福音」を運営されています。



### 編集後記

東京で教皇様のミサがあったちょうど同じ日、実は私も東京におりました。環境省の会議に出席するため、会議後に委員さんたちと懇談しながら「いまごろ、この同じ空の下に教皇がおられるんだな」という不思議な感じをぼんやりと抱きました。なので、実際に出席された方の手記がとても楽しみでした。

また一年、良い年でありますように。

(M.M)

カトリック釧路教会 <https://kushiro-catholic.cloud-line.com/>

〒085-0018 釧路市黒金町12丁目10

TEL 0154-22-5823 FAX 0154-22-5832

教会だより 編集：広報委員会